Heroldo de HEL

N-ro 80
1999 junio - julio

ORGANO DE
HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟
053-0844
苫小牧市宮の森2丁目18-18 星田 淳 方
HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO
Ĉe Acuŝi HOŜIDA
Mijanomori 2-18-18, TOMAKOMAI
053-0844 Japanio

ENHAVO

Anonco pri la 63-a Hokkajda kongreso de Esperanto
第63回北海道エスペラント大会のご案内 2〜3

Mi invitas al kunlaboro
事務局からのお願い 3

Pri "Simpozio de la aina lingvo"
「アイヌ語シンポジウム」に参加して
JOKOJAMA Hirojuki 横山 裕之 4〜5

Esperanto kaj la aina lingvo
エスペラント運動から見たアイヌ語の問題
HOŜIDA Acuŝi 星田 淳 6

Elementaj respondoj al la artikolo de s-ino KAWAI Yuka sur la Heroldo de HEL n-ro 79 pri latinigista kaj kanaista movadoj en Japanio
カナモジ・ローマ字論の初歩
YAMASAKI Seikô ヤマサキ セイコー 7〜9

Ĉe la 73a Kongreso de esperantistoj en Kjuŝu
第73回九州エスペラント大会参加記
HOŜIDA Acuŝi 星田 淳 10

Eseo ふりーとーく
YAMAMOTO Syôzirô 山本 昭二郎 11

Mi proponas "rajton de transmoviĝo"
移動する権利について
KAWAI Yuka 川合 由香 12〜15

Saluto el Israelo
イスラエルから Konnitiva 16

Danke ricevitaj — 受領郵便物 17

Raporto de la 6-a komitata kunveno de HEL
第6回委員会報告 18

TTT-paĝo : Registro de renovigoj
ホームページ更新履歴 19

—〔各ロンドからの案内〕—

Gastoj venos. Anonco de bankedo
パスポルタセルボとしてのロンデタージョからのご案内 Rondetaĝo 19

第63回北海道エスペラント大会に参加しましょう！

9月20日（日）〜26日（日）

札幌でお会いしましょう。

遠方の方はロンデタージョに無料で宿泊できます。
事前にご連絡下さい。（TEL/FAX 011-717-4189）

＊詳細は2〜3ページをご覧ください。

第63回北海道エスペラント大会　ご案内

参加申し込みは、お早めに！！　今年の道大会は、札幌での開催です。
みなさん奮ってご参加ください。 お待ちしてます。

参加申込方法　8月末日までに、郵便振替にて参加費を下記宛お振り込みください。

郵便振替口座 02700-6-17075　北海道エスペラント連盟

その他大会に関する問合せ・連絡先は

連盟事務局：001-0045 札幌市北区麻生町 1-3-13, 3F ロンデタージョ
TEL/FAX 011-717-4189

La 63a Hokkajda Kongreso de Esperanto

大会テーマ　**「エスペラントは世代を超えて」**

－ 国際高齢者年にあたって －

Esperanto iras trans generacioj - en Internacia Jaro por Ag^uloj

〈大会期日〉 1999年9月20日（月）～26日（日） dato: la 20a～26a de septembro

〈大会会場〉 札幌市民会館、かでる2•7、ロンデタージョ

loko: Sapporo-simin-kaikan, Kaderu2•7, Rondetag^o

札幌市民会館　TEL 011-241-9171　札幌市中央区北1西1
かでる2•7　TEL 011-231-4111　札幌市中央区北2西7
ロンデタージョ TEL 011-717-4189　札幌市北区麻生町1

〈主 催〉 北海道エスペラント連盟、第63回北海道エスペラント大会札幌開催実行委員会

〈助 成〉 財団法人札幌国際プラザ

〈大会プログラム〉

9月20日（月）～22日（水）　la 20a～ 22a de septembro　Antau~ kongresa kurso

19:00～ エスペラント入門講座 （ロンデタージョ）

外国人講師による市民向けエスペラント講習会を開催。講師にロシア人及び韓国人を予定。助講師に日本人を予定。1回 1～2時間、受講料 500円（エスペラント祭参加費含む）

9月23日（木）～25日（土）　la 23a～ 25a de septembro　Redakta kunveno de JEJ

日本青年エスペラント連絡会機関誌 "La Junuloj" 編集会議（ロンデタージョ）

全国から青年エスペランチストが10名程参加予定

9月23日（木）　la 23a de septembro　Junulara Kunveno de Esperanto

15:00～18:00 青年エスペランチスト交流会（ロンデタージョ）

「先輩エスペランチストから何を学びとるか」

19:00～21:00 青年懇親会「エスペラントと地球の未来」　Junulara Bankedo

ー エスペラント祭 ー

9月25日（土） la 25a de septembro Festo de Esperanto
10:30～16:00 エスペラント祭

〈パネルディスカッション Prelegoj kaj Diskutoj〉

「現代お年寄り事情」-韓国・ロシア・アイヌ・日本-

Situacioj de maljunuloj en diversaj nacioj

パネラー： **崔 允姫**さん（韓国エスペラント協会機関誌編集委員及び対外部長、日本語教師）、**セルゲイ アニケーエフ**さん（ロシア国立極東大学函館校副校長、教授）、**小川 隆吉**さん（北海道ウタリ協会・アイヌ民族文化伝承の会）、**桑原 一**さん（社会福祉法人 協立いつくしみの会 理事長）

s-ino CHOI Yun-hee s-ro Sergej ANIKEJEF
s-ro OGAWA Ryu^kiti s-ro KUWABARA Hajime

〈講 演 Prelego〉

「ウラジオストックのエスペラント運動と日本との交流
～私はなぜエスペランチストになったのか」

Esperanto-Movado en Vladivostoko kaj ties rilatoj kun Japanio

講師：セルゲイ アニケーエフさん（ロシア国立極東大学函館校副校長、教授）
s-ro Sergej ANIKEJEF

9月26日（日） （かでる2・7 特別研究室）la 26a de septembro
11:00～17:00 **北海道エスペラント連盟総会**
G^enerala kunsido de Hokkajda Esperanto-Ligo
18:00～20:00 懇親会 「北海道のエスペラント運動の歴史とこれからのエスペラント」
G^enerala Bankedo

大会参加費 Kotizo

道内エスペランチスト	2,500円	Esperantistoj en Hokkajdo	2,500 enoj
家族参加者及び不在参加者	1,400円	Familianoj de la Esperantistoj kaj morala alig^o	1,400 enoj
一般市民及び道外参加者	500円	Esperantistoj ekster Hokkajdo kaj lokaj log^antoj	500 enoj
高校生以下	無料	Junuloj 18 jarag^a kaj pli junaj	senpage

宿泊について 遠方の方は無料でロンデタージョに宿泊できます。但し、ざこ寝になります。ホテル等をご希望の方は、ご自分で手配をお願いいたします。

事務局からのお願い Ni invitas al kunlaboro.

道大会も近づいてきました。事務局があるロンデタージョで、毎週土曜日夕方 5 時～7 時に集まって書類整理、道大会の準備作業など連盟の事務処理を行ないます。来れる方はぜひ協力してください。宜しくお願いいたします。

Pri "Simpozio de la aina lingvo"

JOKOJAMA Hirojuki

La 10-an de julio, 1999, ptm., ĉe Tomakomai-Komazawa-Universitato, mi partoprenis en "Simpozio de la aina lingvo".

Mi aŭskultis la bazan raporton "Problemo pri la aina lingvo laŭ Esperanta movado" de s-ro Hoŝida. La tempo de raporto estas nur 20 minutoj. Mi sentis, ke tio estis mallonga.

Pro la temo "Kultura fono de la aina lingvo", ne multaj personoj povis koni Esperanton. Pro tio, s-ro Hoŝida bezonis ekpaloli, ke kio estas Esperanto.
Mi sentis, ke la tempo de raporto estis pli mallonga.

S-ro Hoŝida rapotis esperantistan vidpunkton kun Lingva Rajto kaj Manifesto de Prago, kontraŭ civitana demando kiel "Kio estas rilato inter Esperanto kaj la aina lingvo?" Mi pensis, ke tio estas grava. Pri tio, en la sekva konkludo, vicprof. Shinohara, kiu estis kunordigisto, ŝatis tion. Li diris, "Li unue proponas la koncepton nomita Lingva Rajto de nacia malplimulto....."

Jena afero estas mia privataĵo. En la ripoztempo, mi karmemoris ĉar mi revidis la membrojn de "Siraoi-Ainalingvo-lernokunsido", kiu lernis la ainan lingvon kun mi antaŭe. S-ino OOSUGA Rueko, kiu estis panelisto de la simpozio kaj gvidanto de "STV-Ainalingvo-Radio-Kurso", estas membro de la Ainalingvo-lernokunsido.

Kaj ĉi tiam mi ricevis kukaĵon enhavantan "Sikerpe" (la frukto de felodendrono <Amuro (Ĉino)-korko-arbo>). "Sikerpe" estas aĵo kiel spico uzita por aina kuiraĵo. Mi manĝis tiun antaŭe, tiu estis maldolĉa kiel antaŭe. Oni diras, ke "Sikerpe" estas enmetita en "Rataskep (Boligita miksaĵo el sovaĝherbo, legomo, pulvoro kaj aliaj)."

Se diri tiukoncerne, "la endodermo de felodendrono <Amuro (Ĉino)-korko-arbo>", nomita "Oubaku" laŭ ĉina medicino, estas uzita por kontraŭflamigo, diurezo, senlaksigo, sentoksigo, senhepatito, senstomatito kaj aliaj.

En fino de la beza raporto, parto de la unua "jukar" (aina rakontoversaĵo) <Kamujĉikap kamuj jajejukar, "Ŝirokanipe ranran piŝkan" (Dio Strigo sin prikantis, "Arĝentgutoj ĉirkaŭ mi faladu")> en "Ainu-Ŝin-jooŝuu (di-kantaro de la aina gento)" estis diklamita Esperante kaj ainalingve. Mi pensas, ke tio estas bona.

En ainalingvo, se tio estis deklamita ritme kun "sakehe" (rekantaĵo), mi sentis, ke tio estis pli bona. Sed tio estis malebla, ĉar tia materialo ne ekzistis ci tie. Mi sentis, ke ainalingvo kaj Esperanto estas belaj lingvoj. Se la raporto estis nur parolado, mi sentis, ke tio ne estis familiara. Pro tio, mi pensis, ke deklamo estas bona.

Kiam mi aŭskultis diklamon de ainalingvo, mi rememoris jenan ainavortojn de JAMAMOTO Tasuke "ekasi" (maljunulo).

苫小牧駒沢大学で開かれたアイヌ語シンポジウム

Ajnuitak neŭa sino itak kasikamuj neŭaan itak nerujne.
(Ainalingvo estas lingvo, kiu vere estas spirito de lingvo.)

Ĉar mi havas intereson pri ainalingvo krom Esperanto, mi volas partopreni en tiun kiel la simpozio ankaŭ de nun. Kaj mi tradukas Manifeston de Prago en ainalingvo, kontribuas ainalingvan verkon pri Esperanto al "Ainu Times", kiu estas ĵurnalo nur de ainalingvo. Mi volas aktive koncerni al rilato inter Esperanto kaj ainalingvo ankaŭ de nun.

「アイヌ語シンポジウム」に参加して IKUPASUI : AINA SANKTA BASTINETO

横山裕之

7月10日午後に開催した苫小牧駒沢大学での「アイヌ語シンポジウム」に参加した。

星田さんの基調報告「エスペラント運動から見たアイヌ語の問題」を聞いたが、20分は短い感じがした。

「アイヌ語の文化的背景」がテーマなので、エスペラントとは何かということを知っている人が少ないと思われるのでそこから始める必要があり、そういう意味でもさらに短い感じがした。

しかし、「エスペラントとアイヌ語とどういう関係があるの？」という一般市民が通常感じることに対し、言語権やプラハ宣言を交えたエスペランチストの立場を報告したことは、意義のあることだと思った。これについては、コーディネーターの篠原助教授も「まとめ」の中で「少数民族の言語権という概念が初めて提起されたーー」と評価している。

私事だが、休憩時間には、以前に一緒にアイヌ語を学んだ「白老アイヌ語教室」の人にも会えてなつかしかった。パネリストの一人でSTVアイヌ語ラジオ講座で講師もした大須賀るえ子さんもその一人である。

また、この時に「シケレペ（キハダの実）の入ったクッキー」もいただいた。シケレペはアイヌの料理にも使われる香辛料みたいなものである。前にもいただいたことがあったがあいかわらず苦い。ラタシケプ（野草や野菜、粉などでできた混ぜ煮）の中にもこれを入れたと言われている。

ちなみにキハダの内皮は、漢方では黄柏（おうばく）と呼ばれて、消炎、利尿、下痢、解毒剤、肝炎、口内炎などに用いられるそうである。

基調報告の最後にあった「アイヌ神謡集」の中の一番最初のユーカラ「カムイチカプカムイ　ヤイェユカル　”シロカニペ　ランラン　ピシカン”（フクロウの神の自ら歌った謡　”銀の滴降る降るまわりに”）」の一部分のアイヌ語とエスペラントの朗読はよかった。

アイヌ語の方は、サケヘ（折り返し句）をつけて調子をつけて朗唱できればもっとよかったのだろうけど、資料がないのでそれは無理というものだろう。

アイヌ語もエスペラントも聞いて美しいことばだと感じた。話だけだと堅苦しくなりがちなのでよかったと思う。

アイヌ語の朗読を聞いている時、アイヌである山本多助エカシ（おじいさん）の次のことばを思い出した。

アイヌイタク　ネワ　シーノ　イタク　カシカムイ　ネワアン　イタク　ネルイネ。
（アイヌ語は、本当に言葉の霊である言葉なのである。）

私は、エスペラントの他にアイヌ語にも興味があるので、こういうシンポジウムには、これからも参加していきたいと考えている。また、私は、プラハ宣言のアイヌ語訳とか、アイヌ語だけの新聞である「アイヌ・タイムズ」へ「エスペラント」についてアイヌ語による投稿などを行っているが、今後ともエスペラントとアイヌ語の関係については積極的に関わっていきたいと思っている。

エスペラント運動から見たアイヌ語の問題

Esperanto kaj la aina lingvo

北海道エスペラント連盟委員長　星田　淳

7月10日午後苫小牧駒沢大学で「アイヌ語シンポジウム」が開かれ、私はパネリストという役で、上記の演題で約20分の基調報告を行いました。その内容をメモによって以下のように再現してみました。これで演題にふさわしかったかどうか、どうも自信はありませんが。

今度このシンポジウムで話すことになった、と人に知らせたら、二人から「エスペラントとアイヌ語？――何の関係があるの」と聞かれました。これに答えるところから私の話は始まらねばならないと思いますが、まず、我々の携わっている国際語エスペラント（エスペラント語）について少し説明します。

世界のことば（言語）はどのくらいあるでしょうか。研究社の「世界言語概説」によると、別け方によって変わるが、千五百から三千位と見られています。言葉が違えば当然話は通じなくなるが、よく見るとその間にも、家族や親戚のように、縁の近いもの、遠いものがありますね。英語とドイツ語、スペイン語とイタリア語は各々近いようだ。ロシア語とポーランド語も近い－など外国語を学ぶ内にだれも気づきます。

こうして、インドからヨーロッパまでの広い範囲の主な言葉が、六千年以上前に一つの祖先（祖語）から分かれた、と考えられています。このグループ――インドヨーロッパ語　－は、お互いに違っているが、先祖以来の共通の要素も多い。その共通要素を抜き出して世界の「標準語」が作れないか、と考えた人はたくさんいました。

哲学者デカルトは 1629 年「人工語は可能」といい、ライプニッツは 1666 年「世界語案」を発表。実際に使われたのは 1880 年のヴォラピュークでしたが、やがてエスペラント(1887)が広まってそれに代わります。

エスペラントの創始者　ザメンホフ（Lazaro Ludoviko Zamenhof 1859 ～1917）はロシア領ポーランドのユダヤ人家庭に生まれ幼いときから四民族（ロシア人、ポーランド人、ドイツ人、ユダヤ人）雑居の生活を見て育ち、いつも絶えない民族間の争いに心を痛めていました。

言葉が違うからお互いに理解できないんだ。使いやすい人類共通のことばがあったら！－と考えたザメンホフは 1887 年「エスペラント博士の国際語案」を発表。これが現在私たちが使っているエスペラント語です。

言わば世界の標準語（共通語）として考えられた言葉なので中立の、どの民族にも平等な言語をめざして組み立てられ、ヨーロッパ主要言語の文法、語彙を整理した形になっています。

エスペラントに心ひかれたのはなぜか。幼－少年期に体験した戦争の後遺症でしょう。一貫した「戦争のため、天皇陛下のため」の教育が敗戦で消滅したあと、もうだまされたくない－直接世界にふれ、その声を聞きたい－という思いが育っていたのだな、と思います。

学校の教科書（小学地理の北海道？や中学国語「心の小径（金田一京助）」）で習ってはいたが北海道へ来るまでは「アイヌの存在は知っていた」だけでした。

北海道に移ってしばらくするとだんだん外国人の来訪が多くなりましたが、多くの人が白老や二風谷に行きたがる。外国人はなぜアイヌに関心を持つか調べるうち、世界の多くは多民族国家で単一民族国家は例外的だと知りました。

ユネスコの東西文化交流事業に応じて各地の民話の翻訳発表が盛んになりましたが、日本民話集に北海道編がなかった。ここは元々アイヌの土地だったからですが、それではアイヌ民話にしようと、1971 年第 35 回北海道エスペラント大会で決定。のち知里幸恵の「アイヌ神謡集」が札幌で復刻されたのでこれを訳することに変更して 1979 年初版、1988 年にはアイヌ語文法・単語帳を加えて 2 版、1989 年第 3 版を出すことができました。

英語やエスペラントなどヨーロッパ系の言葉をやったあとで触れたアイヌ語の感覚には何やら、懐かしさがあります。朝鮮語と同じく日本語的感覚でわかる言葉だからでしょうか。又、言葉の成り立ち（語源）の見えやすい言葉という感じもあります。

国際先住民年(1993)には苫小牧エスペラント会がアイヌ新法（案）を翻訳発表しました。この新法が「アイヌ文化法」として施行された後盛り上がってきた「アイヌ語地名を大切にする運動」(1998)にも我々は　参加しています。

エスペラント文で出ている少数民族問題の専門誌(IKEL=Internacia Komitato de Etnaj Liberecoj　の Etnismo) にもアイヌ文化紹介・新法問題は時々掲載されました。

同じ 1998 年は国際人権宣言５０周年に当たっています。この宣言の第２項には、「何人も、人種、皮膚の色、性、言語、――などによって差別を受けない」と明記されており、これから民族の言語権（人は生まれながらの言語を使う権利があり、ほかの言語の使用を強制されることはない－世界言語権宣言 1996.6) という考えが生まれてきました。

エスペランチストが自らの活動の目標や意義を外部に向かって宣言したことは２度ありました。中立の国際語を広めることが目的、と述べた 1905 年のブローニュ宣言が最初のもの、1996 年のプラハ宣言が２度目（最新）のものです。後者は手元の資料でご覧になるように、多文化・多言語の世界でのエスペラントの役割・目標を７項目にわたって説明しております。

最後にアイヌ神謡集の一部（最初のふくろうの神の歌の初め６行ほど）を聞いていただきましょう。アイヌ語原文は白老アイヌ語教室の大須賀先生、どうぞ――。（朗読）　我々のエスペラント訳ではこうです－（読む）終ります。

カナモジ・ローマ字論の初歩

ヤマサキ セイコー　YAMASAKI Seiko^

Elementaj respondoj al la artikolo de s-ino KAWAI Yuka sur la Heroldo de HEL n-ro79 pri latinigista kaj kanaista movadoj en Japanio.

n-ro77 上でのヤマサキ氏の論に関して、n-ro79 でカナモジ・ローマ字論への疑問として川合氏が挙げたのは次の３項目です。
1）カナ文字・ローマ字表記では、現在の日本語に存在する膨大な数の同音異義語が互いに区別できなくなる。 それでは不便ではないか？
2）日本語がカナ文字・ローマ字化されたら、遠い将来には漢語がすたれて、日本語は昔のやまとことばだけの言語に収束していくと理解してよいか？
3）そのように「進化した」日本語は、日本人の知的生活の面で現在の日本語より有用だといえるか？
（樺山）

北海道エスペラント連盟機関誌１９９９年４－５月号の川合由香さんの疑問に答えよう．
昔の日本語への漢字の導入と現代の日本語への英語の侵入とは川合さんを待つまでもなく歴史的背景が違うから区別しなければならないのは当然である．しかし日本語に対する害悪の点では英語と同様である．

１．同音異義語があるから漢字を廃止できないというのは漢字保守主義者が昔から何千回も繰り返してきたことであるが，議論が逆である．ヘーゲルの弁証法と同じく問題の立て方をひっくり返さなくてはならぬ．

漢字がある限り同音異義語はなくならない．なくすればひとりでになくなる．会話では同音異義語は余り問題にならない．というのはひとは紛らわしいことばは使わないように自然発生的につとめるからである．ときに分からないことがあると，「コウエン－ええと，アトオシです，ハナシではありません」などという．それなら後援などという効率のわるいことばはやめてだれでも分かる「アトオシ」というヤマトコトバを使えばいいのである．にもかかわらずそれをしないのは，昔からの中国崇拝のため，漢字というコケオドシを貴ぶ精神からである．耳で聞いて分からないことばなどはことばというに値しないというべきである．

古代の日本語では「え」に２種類あった．ｅとｙｅである．ｅはエノキのこと，ｙｅは枝，江，柄のことだった．それが平安朝の初めくらいにひとつになってしまって，同音異義語が生じた．江，柄はコンテクストが違うから問題は起こらない．しかし枝とエノキは区別する必要がある．川合さんなら漢字が違うから困らないと平然として入るであろうが，いちいち紙に書いて示すのか．めんどうでしょうがないではないか（ちなみにメンドウに面倒とかくのは当て字である－語原にまったく関係がない）．このころの人は漢字中毒が今のように末期的になっていなかったから，簡単にエダとエノキと違うことばを使うことで解決した．コというのはいろいろの意味があった．いまわれわれが，コドモ，コナ，カイコ，ナマコなどと区別しているのは昔の民衆の知恵のたまものである．

中国語は日本語よりはるかにオトがゆたかである．たとえばチというオトは日本語では１つしかない．中国語では有気音と無気音，捲舌音と舌面音の区別があるから４つになる．これがそれぞれ４つの声調をもつから，掛けると１６になる．１対１６．これで同音異義語ができな

ければ不思議である．日本はありうるもっとも悪い選択をしたのである．しかし選択をしたというのは先祖に不公平である．選択の余地はなかった．中国文化はそれほど圧倒的だったのである．川合さんは主体的意志といっているが主体的意志の出る幕はなかった．だから不幸だったのである．しかしいまなら主体的意志をわれわれは行使することが出きる．だからわれわれカナモジ・ローマ字論者は運動をしているのである．

これがちかくにローマ帝国があったのなら今のような不幸は防げた．ラテン語は日本語と音韻の数が余り違わない．しかしこんなことをいっても始まらない．

2．「漢字を廃止したら漢語がすたれてヤマトコトバに収束していくと理解」してはいけない．残念ながら漢字の毒がしみこんでいるのでそうはならない．しかしヤマトコトバの造語力は今と比べられないくらいましているであろう．

3．2を否定しているのだからこれに答える必要はないだろう．

つぎにまた1）が出てきてよくわからないが，1．わたしの名は親がつけたのでわたしの責任はない．自分のコドモにはみなヤマトコトバの名をつけた．カタカナにしたかったが，日本は人と違っているといじめられるというバカげた社会なので妥協して漢字で届けた．セイコーは音でしかないのは漢字だから当然のことである．漢字とはそんなものなのである．追求・追及・追究ということばを使っている人がどういう区別をしているか説明してくれない限りほかの人には分からない．区別したければ語ではなく句にすべきである．または分脈で区別できる限りツイキュウと書いて不都合はない．こんな質の低いことば漢字がなくなれば必ず言い替えが起こって消え失せるだろう．

黙読・斜め読みは漢字文化圏の人の専売とはどこから出てきたのか．まず黙読の件はまったく問題のそとである．ロシヤの人が本を読むのに声を出して読むか．
斜め読みはだれでもやっている．ロシヤ人に聞いてみるといい．ついでにいうならば，あなたはエスペラントで斜め読みをしないのか．それならもって本をたくさん読むとよろしい．おまえはローマ字で書いた日本語を漢字まじりと同じ早さで読めるかと聞かれれば否と答えざるをえない．それはあたりまえのことである．読んだ本の数が何百倍，何千倍だからである．

2．ヤマトコトバに回帰することはない－残念ながら．だからこの項には答える必要はないだろう．

3．日常語と学術語が違うものだというのが偏見である．英語やフランス語はラテン語系の学術語を使う．これは歴史的必然性があった．フランス語はラテン語の子孫であるからしばらく置き（というのは本誌のページの制限があるからということである），英語はラテン語をなくするわけには行かない．しかしちかごろ古典語の知識が廃れてきて術語をギリシャ・ラテン語で作れなくなっている．その結果たとえば物理では quark などという英語が術語になり，前世紀のか学者が聞いたら嘆き悲しむであろう事態となっている．quark は文学作品からきているから，別の例として strangeness をあげよう．これは「奇妙なこと」というまったくの日常語である．だからといって川合さんの心配する事態はまったく起きない．stress も日常語である．これについては日本語にヒットがある．ひずみという川合さんの嫌いなヤマトコトバが stress の訳語となっている．
これは英語であるが，ドイツ語はほとんどのばあいラテン語に対してゲルマン語の対応する訳語があって自由に入れ換えて使うことができる．動詞には Verb というラテン語と Zeitwort というゲルマン語がある．ゲルマン語根はいきいきとした造語力があるのである．

日常語と術語が同じで困るなどということはない．なぜなら分脈が違うから混乱を来すことはない．また学問上の概念は日常語がとらえている現象の本質を拾い上げて磨き上げたものだからである．ヘーゲル哲学でいう Sein は日本では有（ユウと読んだりウと仏教もどきに読んだ

りする）とか存在と訳されているがドイツ語では英語のbe動詞，エスペラントのestiに当たることばである．定在と訳されているDaseinは「そこにある」ということである．「ある」ということを徹底的に考えていくとああなるのである．漢語の術語を使えば深遠そうに見えるだけで内容は変わらない，文字で分かりにくくなった分だけ悪くなっているのである．

要するに学術用語は日常語と違っている方がありがたく聞こえるというだけのことである．これをコケオドシという．川合さんの言われることを外国語に引きなおしていえば，ギリシャ・ラテン語系の術語を使えということに帰着する．それゆえドイツ語は学問をするのにふさわしくないというわけである．それにしてはドイツの学問水準が高いのはドイツ人が優秀だからなのか．これは人種主義である．

一方ギリシャ・ラテン術語は漢語術語に対して圧倒的な優位を持つ．それは国際性ということである．たとえばfilozofioといえば日本と中国・韓国をのぞけば世界中の人が理解する．しかも「哲学」という日本語はfilozofioの訳語としてつくられたことばでわれわれが「哲学」ということばで理解することは外国人がfilozofioということばで理解することと寸分違わない．この問題に深入りするとページが足りないので省く．

もとに戻って，ではギリシャ・ラテンの日常語と違うのが川合さんの理想なのでそれを検討してみよう．ラテン語の術語はギリシャ語の訳であることが多い．

「質」は西洋の論理学では基本的な概念である．「量から質への転化」などに使われている．これは日本・中国をのぞきどこでもkvalitoと兄弟のことばを使う．英語ではqualityなことはどなたもご存じであろう．これはラテン語のqualitasが語原である．このことばは「どんな」という意味の形容詞qualisから来ている．-itasはエスペラントの-ecoと同じく形容詞を名詞に変える接尾語である．日本語では形容詞に「－さ」をつけると名詞になる．「白い」から「白さ」ができる．だからqualitasはいわば「どんなようなさ」である．「質」などというといかにも深刻だがそんなことなのである．これはキケロがギリシャ語のpoiotesの訳として造語したといわれている．ギリシャ語ではpoios「どんな」の名詞化である．これをアリストテレスがその論理学の中で分析してみせたのである．アリストテレスは下宿のおばさんのことばで哲学したのである．それ以外にやりようがなかった．高度の内容を持ったことばをどこから探してくるのか．日常語以外にあるはずがない．ギリシャ語より古い言語から借りてくるか．ではエジプト人はどこから持ってくるか．

qualitasということばはさすがのドイツ語もゲルマン語から作り出すことはしなかった．しかしそれをやってのけた言語があるのである．川合さんのお得意のロシヤ語である．ロシヤ語ではkac^estvoである．すぐにだれでも気がつくようにこれはkak, kakoj（どんなに，どんな）と関係がある．ロシヤでは抽象的思考はむずかしいか．

そのつぎの日本語の例は論拠にならない．第一わかち書きがしてないから読みにくい．今ただちに漢字を廃止しても，日本語はかわらない．良き日本語は漢字廃止の結果として生まれてくるものだからだ．だから第２の文例をそのままローマ字書きする以外にない．したからとて理解されないことはない．これを読む人は専門家だから少しの練習で斜め読みすることができるだろう．ことばが変わってくるのはそれから徐々にである．

「functionをはたらきと関数に，．．．使い分けねばならない英語話者はじつにご苦労さんだと思う」というのはサッパリわからない．漢字とはなんの関係もない話である．英語（のみならず西洋語）の術語の多義性の問題にすぎない．しかもこれが混乱を引き起こしているなどということは聞いたことがない．わたしが英語の文献を読んでいてご苦労だと思ってことはない．なぜ日本人のノーベル賞受賞者が少ないのか．そんなありがたい漢字を使っているのだから断然多くなければならないはずではないか．もちろんこれはバカげた発言である．だが漢字が思考を助けると言い張るのもおなじくらい意味のないことである．

ローマ字学級のことは漢字をなくすれば文化の劣った人びとができあがると思っている人ばかりなのでその反証としてあげた．優れているという結論を出すためには統計資料が必要だが，あの短い文でそこまで論ずる余地がないのは当然だろう．

Ĉe la 73a KONGRESO de ESPERANTISTOJ en KJUŜU
第７３回九州エスペラント大会参加記

HOŜIDA Acuŝi

En la 28～29/aprilo okazis la kongreso en Gastejo Hibiki-soo, Kokura, Urbo Kita-Kjuŝu. Ne nur kjuŝuanoj sed ankaŭ multaj alilokaj konataj gesamideanoj kunvenis tie. Troviĝis ankaŭ S-ino Choi Yunhuy(el Seulo), kiu pasintjare partoprenis nian hokkajdan kongreson. Pri la enhavo jam oni informis en kelkaj organoj, do mi lasu detalon flanken. Por mi estis ĝoje renkonti malnovajn amikojn havi komunan tempon--.

大会内容は他の機関誌にも出ており省略。しかし三つの大会講演（植民地時代の朝鮮での日本人家族３代記、PIV の仏教用語、イスラムと Homaranismo）が皆深い内容のものだったのに感じ入る。九州以外の参加者が結構多く、昨年北海道大会に参加した S-ino Hortensio(Choi Yunhuy) との再会には驚く。しかし Plej malproksimagasto は私だった。ソウルや東京のざっと倍の距離だから。

世代交代の問題（青年層不足）はやはりここも共通の問題。だが地方会は地道に活動し、各地で機関誌を発行している。

SALUTO EL HOKKAJDO　あいさつ（要旨）：北海道エスペラント連盟　星田　淳

Karaj kongresanoj! Mi venis de Hokkajdo, eble plej malproksima el la kunvenantoj. Tamen antaŭ multaj jaroj mi eklernis nian lingvon ĉi tie en Kjuŝu, eble kelkaj el vi scias. Do por mi estas granda ĝojo kaj honoro saluti vin reprezentante Hokkajdan Esperanto-Ligon de norda ekstremo.

Mi supozas, ke eble ankaŭ vi en Kjuŝu, kiel en la tuta lando, japanaj esperantistoj havas komunajn problemojn, kiujn ni devas venki: unue, kiel interesi la publikon, kaj due kiel allogi junulojn al nia afero. Tio estas nia komuna tasko.

Japanaj esperantistoj nun klopodas fortigi internaciajn rilatojn al najbaraj landoj. Ofte mi legas en kelkaj organoj, ke kjuŝuaj esperantistoj amikiĝas kun la koreaj, ofte kunloĝadas. Ni en Hokkajdo klopodas amikiĝi kun rusoj kaj usonanoj. Inter niaj membroj troviĝas kelkaj rusoj, familianoj de S-ro S.Anikejev, vicprofesoro en filio de Rusa Ŝtata Universitato en Hakodate. Ankaŭ al Usono, kelkaj niaj membroj veturas por studi en San-Franciska Somera Kurso. Antaŭ du jaroj ni invitis usonan aktivulon al nia kongreso el Kalifornio.

Sentante nin familianoj kun komunaj problemoj, nun ni volas lerni ankau de vi kiel vi klopodas por venki la problemojn, kaj marŝi kune por nia komuna celo.

ふりーとーく　Eseo

山本昭二郎　YAMAMOTO Syo^ziro^

hero_46

10 年前、私は好奇心から札幌のＮＴＴに寄ってみた。 キャプテンというのは、どんなものと思ったからである。 係員は若い人だったが親切にあれこれ説明してくれ「何でしたら 2、3 ヶ月無料で貸してあげますよ。」と言うので、喜んで無料貸付を申しこんだ。 当時、ＮＴＴではキャプテンの視聴者拡大のためキャンペーン中だった。

当時のテレビには字幕物も少なくＢＳ放送も無かった、と思う。 ＮＴＴではすぐ設置してくれた。 電話線を分岐させ、キャプテンのチューナーに接続し、かつチューナーからテレビの尻に接続した。 これで使えるようになった。

キャプテンのカタログには何百と接続先がある。 私には面白いものが沢山あった。 ニュース、観光地の案内、天候、競馬の情報、株式のトレンド（いわゆる罫線）、音楽、等。このキャプテンこそ今のパソコンの先駆だったのだ。

4 年前、私は札幌医大付属病院に 1 ヶ月半入院し左耳に人口内耳手術を受けた。小樽の家にかえって一番はじめにした事は、このキャプテンのカラオケ番組に接続することだった。 戦時中完全に失聴した私には、敗戦後の流行歌や演歌は全然理解出来ない。しかし、他に洋楽の練習曲というのがあり、「バッハの練習曲」を見つけた。私のあやふやな聴力では行進曲のように聞こえる。すっかり気に入って毎日聴き入った。

2 年前、「ニュールンベルグ裁判」という白黒のテレビ映画をみたが、このバックミュージックが鎮魂曲にきこえる。 健聴者にも同じなのかしりたい、と思う。

3 月 31 日で文字放送の７１２番「親子でうたうファミリーソング」が廃止になり私は落胆している。 昔の小学校唱歌のメロデイが 2 周毎に変わるので楽しみだった。 なぜ廃止になったのか理解できない。 きっと視聴者が少ないから、と思ったのだろう。 全くＰＲもしないでの廃止はいかにも官僚的。 もし、ＡＣＩＴＡの仲間でやっぱり視聴してた人がいたら意見を聞きたいものです。

50 年前、私はエスペラントを学習した。 英語が難しかったので友人にすすめられて取り組んだ。 エスペラントを 6 ヶ月学習すれば、英語を 3 年やったと同じ語学力が付く、と言われている。 特に文法は易しく発音も簡単、語根も欧州系のもので仏•独•西語の習得も楽。 毎週木曜日夜に勉強会があり、テキストの輪読などをやっていた。 その間私は外国からきたエスペラント文の手紙や雑誌を読んでいた。 集会の終わりにラ•エスペーロ「希望」、ラ•タギージョ「夜明け」を合唱して散会。 先日、この 2 つの曲の楽譜を見つけ、丁度、東京から孫たちと帰省していた娘にピアノを弾いてもらった。 気に入ったのでテープにとった。 エスペランチストになって 50 年、やっと仲間の歌を聞いた。 良い曲だと思う。 私にも音の夜明けであり、未来への希望である。 人工内耳に感謝。

MI PROPONAS "RAJTON DE TRANSMOVIG^O."

移動する権利について

KAWAI Yuka

hero_42

これは、日本青年エスペラント連絡会の機関紙「La Junuloj」第43号（1999年5月5日発行）に掲載された記事で、著者及び発行元の許可を得て、ここに転載させていただきます。もともとは、電子メールの会話で、「外国からの招待の身元責任」→「責任」→「自動車保険」→「車そのものの正当性の是非」と話が流れに流れて論争が熱くなった末に、「車、交通、社会」をテーマに3人が論文を書くに至ったらしいのですが、その内の川合さんの文をなぜ当誌に引き抜いたかといえば、これが他ならぬ北海道の問題を掘り下げているからです。（編集部）

En kia urbo au~ vilag^o vi log^as - pri flanko de trafiko? C^u vi suferas pro troa multekosteco por parkejo? C^u subtera fervojo efike funkcias? Au~ c^u nur unufoje en tago haltas buso?

La au~to estas utila. Ne sur fiksita linio sed al ajnan lokon je ajna tempo oni povas movig^i. Estas tute nature ke uzado de au~to popularig^is en Japanio dum c^i kelkdekaj jaroj.

Tamen, antau~enig^o de motorizado havas tre grandan kaj seriozan negativan flankon - malkresko de publika trafiksistemo. Sekvante tio, homoj sen au~to au~ au~tostiro-licenco ig^as fremdigitaj en c^i motorizadita socio（クルマ社会）.

Unue mi skribas simbolan rakonton. Antau~ c^irkau~ dek jaroj, mi log^is en urbo Toyota（豊田） kaj iradis al altalernejo en najbara urbo, Okazaki（岡崎） per fervojo. La horaro de c^i linio estas metata en tabelo n-ro1. C^i du urboj ambau~ havis log^antojn pli multe ol tricent mil. Tamen, tiutempe c^i Linio Okata（岡多線）bezonis 800 jenojn por profiti 100 jenojn. Preskau~ c^iuj veturantoj estis lernantoj. Tial c^i tiu linio estis forlasita de JR kaj transdonita al oficiala-privata kunlabora entrepreno（第3セクター）en 1988 (Grafikaj^o n-ro1). La kialo, s^ajne ankau~ vi povas imagi, estas ke en kaj c^irkau~ urbo Toyota estas viglega produkto de au~tomobilo kaj la log^antoj plene kutimas posedi kaj uzi au~tojn. En Toyota plejmulto de la log^antoj - almenau~ pli ol 70% - rilatas kun au~tomobilo-industrio iamaniere, inkluzive mi mem. (Mia patro estas ing^eniero pri au~tomobilo kaj tiutempe laboris kiel desegnisto en subkontakta fabriko de kampanio TOYOTA.) Dank'al TOYOTA, urbo Toyota tute ne ricevas subvencion de S^tato por loka au~tonomio（地方交付税交付金）. Tamen ni, senlicenculoj estis devigitaj dependi de c^i tiu maloportuna fervojo (Tabelo n-ro1) kaj de buso same au~ plie maloportuna. Tiutempe mi ne g^isvenis demandon pri respondeco de au~toritatularo. Sed mi fakte sentis tiun situacion maljusta.

De 1990 g^is 1994 mi log^is en Nagoya（名古屋）kaj post tio en Sapporo（札幌） por studi. En c^i du urboj mi ordinare povis uzi subteran fervojon kaj buson. Malgrau~ mi havis au~ton en Sapporo, mi preskau~ ne uzis nek bezonis g^in ene en la urbo. Mi uzis la au~ton nur kiam mi vizitis mian studejon en eksperimenta arbaro de la universitato en norda Hokkajdo.

Ekde 1997 mi log^adas en eta vilag^o en norda Hokkajdo, nomata Nakagawa（中川）, najbara de vilag^o Otoineppu（音威子府）. C^ar en la vilag^o ne ekzistas busolinio, niaj trafikaj rimedoj estas au~to kaj fervojo. Bonvole vidu tabelon n-ro2. Log^antoj krom centro de la vilag^o ne povas fari kutiman, banalan kaj senmankeblan aferon sen au~to - ekz. iri ac^eti gravetan aj^on, viziti hospitalon, k.a. (Ununura kuracisto en mia vilag^o kapablas nur internan medicinon.) Tial en c^i loko ordinare c^iu hejmo havas du au~ tri au~tojn. La tria estas por kamplaboro, plejmulte (Grafikaj^o n-ro2).

Estas same en aliaj regionoj en Hokkajdo, krom la centro. Grafikaj^o n-ro3 montras malkreskon de fervojolinioj en norda Hokkajdo de 1981 g^is nun. Tra tuta Hokkajdo dum c^i periodo 30% da liniolongeco

malaperis. Ununure, eksa Linio Tihoku（旧池北線） estas transdonita al oficiala-privata kunlabora entrepreno. Tamen, nun oni diskutas nuligi au~ restigi g^in pro troa malprofito de financo.

Au~to, kiu devas esti utila, forpelis fervojon. Konsekvence, la trafiko ig^is maloportuna por senlicenculoj pli ol antau~e. Tio estas ironiego.

Nun plejmulte anstatau~ nuligitaj fervojolinioj iradas busoj. Tamen, c^iuj plene malprofitas finance. Tio tute naturas, c^u ne? En malpopoldensa regiono buso estas pli efika rimedo ol fervojo, c^ar relkonservado（保線）multege kostas - precipe en malvarma kaj neg^multa regiono. Tamen, jam plejmulto de la log^antoj uzas au~ton forlasinte la buson. La c^efa kialo estas maldenseco de horaro de busokursado. Tio estas malbona cirkulado. Sed senlicenculoj devas dependi de la buso. Malgrau~ tio, plua dau~rado de multaj busolinioj estas minacata en nuna tendenco de Malmultig^ado de Reguligoj（規制緩和）. Mi kontrau~as al c^i tia emo.

Kaj, se felic^e oni kapablas stiri au~ton, ne nur ac^eti sed ankau~ posedi g^in tre multe kostas, c^u ne? Kvankam iom da homoj havas au~tojn por lukseco au~ hobio, plejmulto uzas pro neceseco - precipe en malpopoldensaj regionoj pro senmankebleco. Mi, personeskribe, kutime g^uas stiradon de au~to kvazau~ iusencan sporton. (Nur en kamparo, kompreneble.^^;) Tamen, certe ekzistas kelke da homoj, kiuj ne deziras havi au~ton se nur c^iutagaj aferoj estus plenumeblaj per fervojo kaj buso. Por tiuj, au~toimposto, kotizo por au~torevizio ktp s^ajnas maljusta kaj kontrau~logika punmono, mi supozas.

Mi opinias ke trafikaj rimedoj por c^iuj devas esti respondecitaj de S^tato.

1. Linioj de fervojo kaj buso ne devas esti nuligitaj plu. Iliaj horaroj estu densigitaj plie. La deficiton S^tato kompensu.
2. Senlicenculoj povig^u uzi taksion malmultekoste.
3. Kotizo por gajni au~tostiro-licencon estu pli malmulta. (Nuna kotizo, c^irkau~ tricent mil enoj, estas tro multa, mi pensas.)
4. Prezoj de au~to kaj g^ia brulaj^o estu multekostaj en urbaro kaj malmultekostaj en kamparo.
5. Pri au~toimposto, estu same kiel 4.
6. En urbaro S^tato pliplenigu retojn de surtera kaj subtera fervojo, tramo（路面電車） kaj buso.

Mi asertas tiel c^i.

Kial S^tato respondeci? En 1985, kiam la log^antoj estis deziregantaj dau~rigon de C^eflinio Nayoro（名寄本線）, onidire, iu politikisto vizitante Nayoro diris nesenteme, "Kial vi log^as en c^i tiu lokac^o? Se c^iuj log^antoj en norda Hokkajdo translokig^us, Honsyu^ kapablas akcepti sufic^e." Ne s^ercu!! Distribuo de popolo enlanda c^efe devenas de viglecoj de industrioj en la tempo. Kaj sukceso kaj malsukceso de iu industrio multe dependas de la politiko. Problemoj rilatantaj kun trodensa kaj tromaldensa popolo devas esti atribuitaj respondecon al S^tato. Tiuj problemoj ne estas solveblaj nur de la log^antoj kaj la lokaj administracioj.

Sekve mi opinias ke S^tato devas konservi publikan trafiksistemon kaj realigi malmultekostan uzado de au~to en kamparo, kiu perdis viglecon kau~ze de kompeso de longdau~raj politikac^oj, t.n. japane 農政＝No 政 .

Kaj samtempe, mi opinias ke en urbaro plie utiligu fervojon propre tau~gan al transporto je granda kvanto.

Dum lastaj kelkdekaj jaroj, kelkaj novaj ideoj estas proponitaj kiel parto de homaj rajtoj - ekz. "Rajto por Sciig^i"（知る権利）, "Rajto pri Medio"（環境権）, "Rajto de Memdecido pri Seksumaj^oj"（性的自己決定権） ktp. Aldonante, mi volas proponi "Rajton de Transmovig^o"（空間移動権）, kiel unu novan komprenaj^on de dudek-unua jarcento.

Urbanoj, kamparanoj, maljunuloj, infanoj, handikapuloj - c^iuj povu libere transmovig^i en c^iutagaj vivoj kun trankvilo.

Tabelo 1. Horaro de mia c^iutageuzita stacio, Mikawa-Toyota(三河豊田) de Linio Okata (en 1987)

Direkte al Sin-Toyota	Direkte al Okazaki
6:46	7:04
7:25	7:48
8:10	8:25
9:32	9:46
12:37	12:56
13:59	14:19
15:15	15:30
16:21	16:42
17:06	17:19
17:41	17:59
18:21	18:48
19:10	19:23
20:49	21:04

Grafikaĵo 1. Eksa Linio Okata kaj g^ia posta longig^o

eksa Linio Okata (JR)

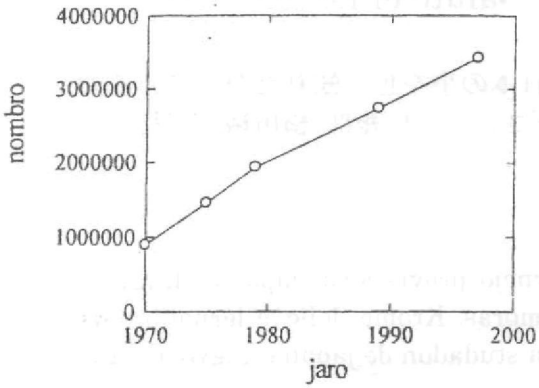
parto realigita post transiro al la oficiala-privata kunlabora entrepreno

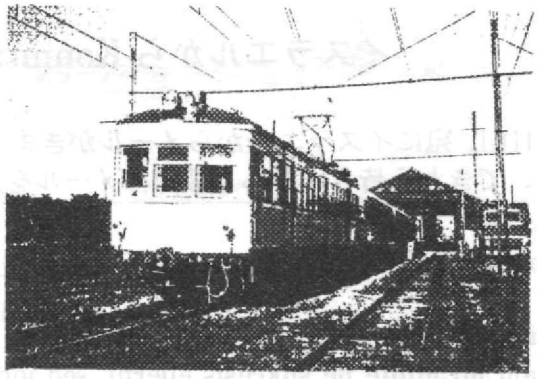
Tabelo 2. Horaro de stacioj en vilag^o Nakagawa de C^efinio So^ya

Direkte al Wakkanai				Direkte al Asahikawa			
Saku	Tesio-Nakagawa	Simo-Nakagawa	Utanai	Utanai	Simo-Nakagawa	Tesio-Nakagawa	Saku
	4:06					**0:13**	
6:50	7:02	7:07	7:11			7:02	7:10
9:29	9:37		9:45	8:19	8:24	8:29	8:37
	10:49					**9:20**	9:29
14:14	14:26	14:30	14:35			12:39	12:47
	15:50					**14:25**	
16:22	16:44		16:52	16:26	16:31	16:36	16:44
18:24	18:42		18:50			**17:30**	
	20:58			18:34		18:42	18:50

Dikaj literoj montras ekspresojn.

Lokaj trajnoj de ĉi linio ofte portas preskaŭ nur aeron ... (rido)

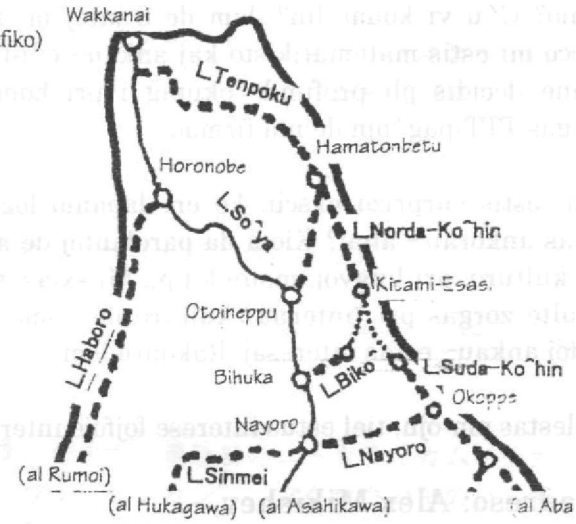




Grafikaĵo 2. Nombro de Posedataj Aŭtoj en Hokkajdo

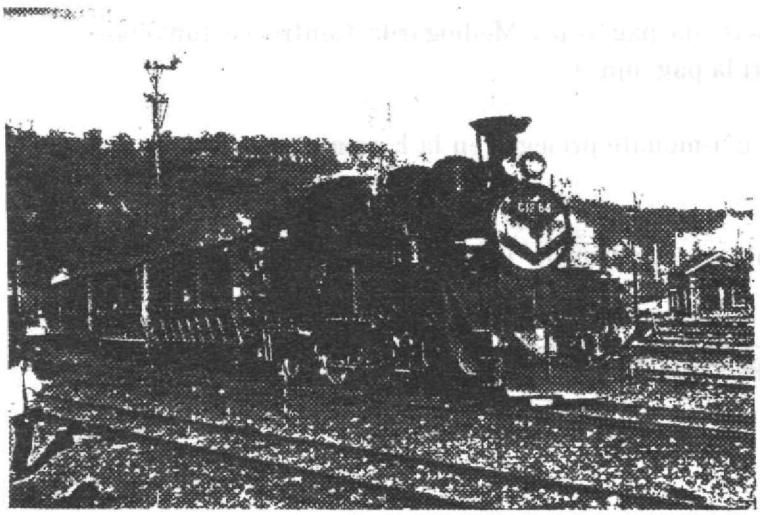
(de statiko de Ministrejo pri Trafiko)

Kiam mi estis knabino,
mi deziris estiĝi
stiristo de trajno...



Grafikaĵo 3. Maikresko de fervojolinioj en norda Hokkajdo (1981～1998)

—— nuna linio - - - nuligita linio ..... konstruota linio



イスラエルから Konnitiva　Saluto el Israelo

HEL 宛にイスラエルからメールがきました。 日本の事を色々知りたがっているので、できたら皆さんからも彼宛にメールを出して下さい。（広報部 横山裕之）

Konnitiva, Jokojama-san, saluton!

Mi iam,kiam ankorau~ estis lernanto de baza lernejo provis lerni japanan lingvon. Tiam mi multe ne sukcesis ellerni, sed ion mi memoras. Krome, felic^e lernolibro de japana lingvo restis c^e mi, tiel mi volus dau~rigi la studadon de japana lingvo. C^u vi helpos al mi?

Mi naskig^is en Rusio, tiel mi au~dis pri Sergeo Anikiejv. C^u li nun log^as en Japanio? C^u vi konas lin? Jam de 8 jaroj mi kun familio log^as en Israelo. Lau~edukeco mi estis matematikisto kaj ankau~ c^i-tie laboris en Tel-Aviva Universitato, sed fine decidis pli profunde okupig^i pri komputiloj kaj komputado. Mi ankau~ prizorgas TTT-pag^ojn de nia firmao.

Por mi estis surprizo ekscii, ke en Japanio log^as diversaj etnoj (kiel ainoj). C^u ekzistas ankorau~ aliaj? Kiom da parolantoj de aina lingvo ekzistas? Mi interesig^as pri la kulturo, pri lingvoj, motoj k.t.p.. Mi sxias, ke orientanoj (japanoj, c^inoj, koreoj) pli multe zorgas pri "interna" kulturo de homo, pri g^ia sanstato. Diversaj kuracaj metodoj ankau~ estas interesaj. Rakontu iom.

Mi kolestas pm-ojn, tiel estus interese fojfoje inters^ang^i leterojn aerpos^te.

Mia adreso: Alex Mikishev,
str. Amazia Ha-Melech 20/1, IL-77484 Ashdod, Israel
retpos^to: mikisal@inverness.co.il

Certe kiam la TTT-pag^oj estos pretaj mi surpag^igas linkojn al via c^efa pag^o.

I. a, mi trovis ke kelkaj el linkoj sur via pag^o pri Mediogarda Centro ne funkcias. Krome estus bone iom lingve redakti la pag^ojn:-)

Koran dankon pro la respondoj. Mi c^i-monate prelegos en la E-seminario. Estonte mi publikigos la artikolon en TTT-ejo.

Por hodisu~ mi finas. kore vin salutas el varmega Israelo (hodiau~ ni havas +30!)
G^is ! Alex

来年の世界大会はテルアビブで開催されます。 参加すれば Alex さんに会えるかもしれませんね。（編集部 樺山）

＊橋渡しのコトバエスペラント【世界共通語普及テキスト】第2版 1988.09.02 エスペラント伝習所須恵（福岡県）発行：165X115mmX45 頁. 福岡ではこれを使って海外文通教室を開催。

＊センター通信：1999年 5月 6日名古屋エスペラントセンター発行 N-ro209, B5X14頁の内エスペラント文1頁。4月開かれたセンター維持員総会特集号。各担当の報告、機関誌の内容一覧は運動記録のデータベースになっている。

＊LA TAMTAMO: 第302号(1999年 5月号）横浜エスペラント会(JER),A4 X 4頁（日本文）

＊Novaĵoj Tamtamas:n-ro 148,majo 1999, A4 X 4頁、全文エスペラント（JER).

＊Vizitu nin! JOKOHAMA ESPERANTO-RONDO A4三つ折り、JER の活動についてのPR用チラシ、エスペラント文、1999-04 版

＊ホテルノースシティ（札幌市南9西1）ご宿泊優待券： 9～10 月はシングル ¥5300、ツイン¥10000, 7～ 8月はシングル ¥6200, ツインで¥11000。いづれも税別。5枚あります。希望の方には送ります。

＊LA SUNO:山梨エスペラント会、N-ro 68,1999年6 月1 日、B5 X20頁のうちエスペラント文1頁半。Esperanta Kalendaro エスペラント一日一言（池本盛雄）は、その日にかかわるエスペランチストの言葉や作品を紹介していく試み。切手収集50年の思い出（八巻信夫）では世界のエスペランチストとの交流で集めた切手がカラー印刷で紹介されている。

＊NOVA VOJO:1999. 6 (N-ro 342 junio), 大本エスペラント普及会, A5 X31 頁、内エスペラント文5頁弱。国際エスペラント教員連盟主催異文化交流・理解プロジェクト（後藤順子）はユネスコの Lingvapax 計画にもとずいて準備中の、インターネット上の模擬学級で、今年9月開校の予定。

＊LA TAMTAMO: 第303号(1999年 6月号) 横浜エスペラント会(JER),A4 X 4頁（日本文）先号から「新会員からの声」欄ができた。エスペラントについての考え、学習法などにユニークな考えが出ていておもしろい。

＊Novaĵoj Tamtamas:n-ro 149, junio 1999, A4 X 4頁、全文エスペラント（JER). Ibiso naskigis kaj kreskas は日本のトキの現状と移入トキにひよこが生まれたことについて。

＊Eskalo 第80号、1999年6月、川崎エスペラント会、B5 X 4頁のうちエスペラント文約1頁半は Rijeka IJK 報告の続き、Ekskursoj(Ito Hidetada)

＊センター通信：1999年 6月14日名古屋エスペラントセンター発行 N-ro210, B5X12頁の内エスペラント文は WANG HANPING(EPC編集者）の Familia vivo de cinoj 3頁。「電脳E情報」に学生時代名古屋で活躍した小倉英敬氏が自ら人質の体験を書いた「知られざるペルー事件の127日」（朝日新聞発行「論座」6月号）のこと。

＊水星 4号：水星舎受贈資料他 1999年1-6月 Heroldo de HEL N-ro 78の「ユーゴ空爆――」の記事が転載されている。「市民運動とインターネット（連載13）－アメリカの盗聴事情」は先に HdeHEL N-ro 72 に出た Ĉu "La GrandaFrato" -- と共通の問題。B5 X 8P 頁

＊Meros 65:1999-6-20 水星舎発行 A5 X15頁＊受講生通信 第65号 1999-07-01: 沼津エスペラント会通信講座：B5X 14頁のうちエスペラント文約4頁。［受講生のお便り］に帯広の真鍋さんからのが3通。初級修了、中級へ進級！！Gratulon!!!!

＊La Movado N-ro 581 jul. 1999, B5版20頁の内E.文1頁半。宮本正男没後10年を記念して小特集を組んでいる。

＊VoJo SENLIMA:No.144 julio 1998, 熊本エスペラント会、B5 X10 頁. 4月死去された鶴野六良会長の追悼と5月の年度総会の記事。

＊NOVA VOJO:1999.7/8(N-ro 343 jul.-aug.) 大本エスペラント普及会, A5 X31 頁、内エスペラント文16頁半。

＊映画「南京1937」上映成功のための賛同・協力団体のお願い：上映は9月19日14時と18時、かでる2・7

＊La Movado N-ro 582 aug. 1999, B5版20頁の内 E.文1頁。 久しぶりの歌（楽譜付き） は Adiaŭ nur post la danco(さよならはダンスのあとで)

第6回委員会報告

Raporto de la 6-a komitata kunveno de HEL

〔日時〕 7月17日（土）午後5時～
〔場所〕 ロンデタージョ （札幌市）
〔出席者〕 星田 淳、後藤義治、佐藤英治、樺山裕介、横山裕之、宮沢直人、山下博子（会計監査）、鈴木佳子（事務局員）、権野正浩（会員）
〔議事内容〕

1. 5月合宿収支報告
5月合宿の収支報告が行なわれ確認した。

2. 2000年第64回大会開催地について
機関紙に掲載された「次期大会開催地の推薦」記事を読んだ読者から、大会開催地についての意見が寄せられた旨、事務局より報告があった。
尚、次回委員会に、帯広での開催可能性について宮沢委員が交渉し報告する。

3. 翻訳業務サービスについて
下記掲載要綱を承認した。 現在、「民衆のメディア連絡会」からの依頼によるエスペラント訳の作業中である。

4. スウェーデンよりエスペランチスト来道の件
スナルベリ啓子さん北海道に8月5～12日の間滞在予定。

5. インターネットの現状について
プロバイダーとの契約システム変更により月額の使用料が安くなった。

6. 旅費規定の件
後藤会計担当作成の案を大会議案として提案することを承認した。

7. 会計報告
会計よりこの間の会計報告が行なわれた。

8. 極東ロシア沿海州訪問団の件
宮沢国際部長より訪問団の準備状況について報告があった。 川合委員から訪問団の「経費に関する意見書」が出され検討した結果、参加者の経費は自費、連盟からは議定書の内容に関わる経費の支出をお願いすることになった。

9. 極東エスペラント後援会について
名称を「北海道エスペラント後援会」とし大会議案として提案することなった。

10. 第63回北海道エスペラント大会について
大会の趣旨・目的を確認した。 予算規模として参加者数 50 名程度は財政的に必要であると確認した。 大会記念品はユーゴの空爆日誌についての日・エス版とし、連盟の出版物として発行することとした。
JEJの編集会議日程は
9月23日（木）・24日（金）・25日（土）
大会直前入門講座の開催
9月20日（月）～22日

11. 事務所使用料の設定について
ロンデタージョ所有者より事務所使用料として1000 円/月の提案を受け、次回総会議案として予算案の中に盛り込むこととした。
事務局体制変更に対処するため、機関誌編集発行などを含む事務局作業を毎週土曜日午後5時より7時まで行なう。 会員諸氏に参加協力を呼びかける。

12. 機関誌発行の件
原稿〆切 24日　発行日 27日

次回 委員会開催日程　9月4日（土）17:00
於 ロンデタージョ

北海道エスペラント連盟 翻訳サービス要綱

1. 連盟は広く連盟員の協力を得ながら市民のエスペラント語の活用・利用に資するために、市民から依頼のある場合及び連盟が必要と認める場合に、エスペラント語⇔日本語の翻訳サービスを可能な限りにおいて行なう。
2. 連盟の翻訳サービスにあたって広報部及び教育・研究部が連絡・調整の窓口となり、当該の依頼者・連盟員に適切な情報を提供しサービスの円滑な進行をめざす。
3. 翻訳サービスは、誹謗・中傷・虚偽の文章についてはこれを行なわない。 また、論争などについては、双方に翻訳サービスの存在を伝え、一方の側に加担する旨のないことを周知することとする。
4. 翻訳サービスは、原則的に無料で行なう。 長大・翻訳困難な文章また継続的なサービスを必要とする場合は、実費及び手数料を徴収することがある。 営利目的の文章の翻訳は翻訳料を徴収することがある。
5. 広報部及び教育・研究部は、問題が生じるおそれがあると考えられる場合、委員会にはかり助言や指導を受けることができる。

北海道エスペラント連盟 インターネット ホームページ
Hokkajda Esperanto-Ligo TTT-pag^o

更新履歴

20 1999. 7.15 天方良彦さんのホームページ（アジアの奥地。謎の国へ切手の旅。）
19 1999. 7.10 カナモジ論について（若林眞守氏）
18 1999. 7. 5 カナモジ・ローマ字論の初歩（ヤマサキセイコー氏）
17 1999. 7. 3 北海道立稲北高校「エスペラント同好会」について
16 1999. 6.27 アイヌ語シンポジウムのお知らせ (1999.7.11 消去)
15 1999. 6.17 日本語カナ文字・ローマ字論への初歩的な疑問（川合由香さん）
14 1999. 6.11 アイヌ語地名と日本語地名の併記を求める署名
（北海道エスペラント連盟有志よりお知らせ）
13 1999. 4.29 ユーゴ空爆時の一市民の生活（電子メール）
12 1999. 4.24 5月合宿の案内（1999.5.18 消去）

Registro de renovigoj

14 1999. 7.15 Al hejmpag^o de AMAGATA Yoshihiko
(Pri pos^tmarko de loko profunda en Azio)
13 1999. 6.11 Subskribo por montri loknomojn ainajn kaj japanajn kune
(Anonco de Volontuloj de Hokkajda Esperanto-Ligo)
12 1999. 4.29 E-leteroj el Jugoslavio pri bombarado
11 1999. 4.24 Informo de nia Kunlog^ado (1999.5.18 forstrekita)

7月26日現在 HEL ホームページへのアクセス数 エスペラント版 560件
日本語版 464件

ホームページのアドレス（URL）
http://www2u.biglobe.ne.jp/~HEL/index.htm
HELの電子メールアドレス
hel@mud.biglobe.ne.jp

【各ロンドからの案内】ANONCO de RONDETAG^O

パスポルタセルボとしてのロンデタージョからの案内
Gastoj venos. Anonco de bankedo

8月5日から12日まで、エスペランチストのスナルベリ啓子さんが札幌に滞在します。10日か11日の夕方にジンギスカンパーティーをロンデタージョで行ないたいと思います。参加希望者は宮沢直人（TEL 011・717・4189）まで。

編集部から

エスペラントは「絆」です。数ある縁（えにし）のうち、私たちが選び取った網のひとつといえるでしょう。

ところで、私自身は、個人主義で、エスペラント界に興味がありませんでした。よって、ＨＥＬ，ＪＥＩ，ＵＥＡなどの業界用語をなかなか覚えませんでしたし、覚えようともしませんでした。ここのように、公の場にしゃしゃり出てくるようになったのは、ここ１、２年のことです。この個人主義を内包したまま、なぜエスペラントをしているのか？

絆としてのエスペラント。生死の境近くにいて、これで何とかこちらにつながっている人もいるのです。アメリカで、ザンビアで、北海道で。ユーゴからのメールも広い意味でそうです。理想主義から生まれたエスペラントという手段は、信頼できる人をいたるところに確保できます。心の渇きを癒し、ＳＯＳを送ることもできます。身体と精神の命綱としても有効なのです。

核軍拡まっ盛りの冷戦時代に生まれ育ち、ノストラダムスの予言を真面目に信じていた私は、心の底で世の中の仕組みに身を預けることを拒み続けてきました。核戦争こそ起こりませんでしたが、案の定、崩れ落ちてゆく社会システムや自然の現実の中で、日常をアテにしないサバイバルの考え方は、いまだに重要だと思っています。

私の場合、ひとつには、底辺にあるサバイバリズムが、エスペラントを選ばせたのではないか。そんな思いに至りました。

今月は、色々の事が私の身近に集中して起こりました。わやでした。そんなすぐ後で考えた事です。

またページを私物化してしまいました。しかし軽い事は書きたくない気分なので、長文になりました。お許し下さい。

1999年第７の月　　樺山　裕介

El redaktejo

Esperanto estas rilato. Tio estas unu el la retoj, kiun ni elektis.

Mi estis /estas individuisto kaj ne havis intereson pri esperantio. Tial mi longe ne memoris la nomojn :HEL, JEI, UEA, ktp. Antaŭ nur 1~2 jaroj mi aperiĝis ofte en la esperantio de Hokkajdo. Kial mi estas esperantisto malgraŭ tia individuismo soleca?

Fakte kelke da personoj apenaŭ ligas sin kun nia socio per E kiel fadenema rilato sub minaco de morto en Usono, Zambio, eĉ Hokkajdo. La reta letero el Jugoslavio ankaŭ estas sama kazo. Esperanto, kiun naskis idealismo, prenas al ĉiu konfideblajn homojn ĉie. Oni povas informi sian krizon al ili. E povas funkcii kiel kontraŭkriza maniero.

Mi kreskis en la periodo de malvarma milito, dum atombomboj multiĝis pli kaj pli, kaj fidis la profeton de Nostladamo. pro tio mi rifuzadis senkonsideran akcepton de socia sistemo. Ĝis nun atombomba milito ne okazis, tamen la socia sistemo rompiĝadas kaj la naturo difektiĝas efektive. Mi kredas ke kontraŭkrizismo ("survival" en la angla) sen normaleco estas grava eĉ nuntempe.

Eble la kontraŭkrizismo instigis min lerni E-on,ĉu ne?

En ĉi tiu julio multaj aferoj akcidente okazis intensive ĉirkau mi. Post tia sperto miĵus konsideras tiel kiel supra.

KABAYAMA　Yûsuke

Heroldo de HEL
第80号（1999. 7.27）
北海道エスペラント連盟機関紙
編集部 〒001-0045
札幌市北区麻生町 1-3-13, 3F
ロンデタージョ TEL 011-717-4189
郵便振替口座
02700-6-17075
北海道エスペラント連盟